

宮崎大学発 都農町かわら版

令和6年9月号



宮大が都農町寄附講座等
で行っている活動や情報を、
定期的にお知らせします！



寄附講座とは、教育研究の進展及び充実を図ることを
目的として、大学や研究機関などに対し寄附を行い講座を設置する制度です。町とし
て単独での寄附講座の開設は全国的にも珍しく、**宮崎県内では初めての取り組み**です。

都農ワイン
最高～！

☆☆都農にくる宮大のひと紹介☆☆

吉岡ひかりさん 工学部電子物理工学科修士2年
京都府出身、家族で都農ワインのファン
都農ワインにて8～9月に8日間収穫アルバイトに従事

工学部荒井研究室で光センシング技術を用いたマンゴー
軸腐病の非破壊検出技術の開発、レーザー照射を用いた発症
抑制効果の研究をしています。



Q. 収穫アルバイトを希望した動機と終わって初めての感想は？

A. 8日間都農ワインさんでお世話になりました。アルバイト
に参加した動機は、もともと都農ワインが大好きだったことと、
私自身が来年から県外就職のため宮崎を離れることになるので、
ブドウの収穫を通して都農ワインのことを深く知り、その魅力
を県外の方にも伝えられるようになりたいと思ったからです。
収穫アルバイトは、正直かなり楽しかったです。日頃室内で過ごす
ことが多いので、早起きや屋外での作業は大変でしたが、それよりも
スタッフの方と収穫中にお話ししたり、ブドウを食べたり、時々現れる
すごく大きくてツヤツヤのブドウを収穫することはとても楽しく、
毎回もう16時か！となっていました。スタッフの皆さんの愛情がたっ
ぷり入って都農ワインが作られていることを身をもって実感すること
が出来ました。自分も微力ながらその一員になれていたら嬉しいです。



瀬川ゼミ4年大村倅生(こうせい)さん活動紹介

地域学部

美郷町出身、趣味：溪流釣り・ツケ針
研究テーマ：地域に伝承される伝統文化お
よび生活文化が地域に与える影響について



昨年より都農町内外（立野・福原尾・新今
別府・篠別府・征矢原・明田・佐土原町な
ど）でヒアリング調査を行い13名にお話を伺
いました。その中で、高齢化による伝承文化
の維持・管理の難しさ、地区内の寄合などの交流の場の減少と
いう現状を、寂しいと感じる住民の方が多いことを知りました。
少子高齢化で地域のことを詳細に知る人が減る中で、この研究
は早急な課題であると改めて感じました。

私は美郷町で生まれ育ち、大学で初めて街に出ました。故郷
を離れ地域交流が激減したときに、自分が地区全体で育てて
もらっていたと気づきました。都農町も子どもが減少し、地区で
子どもを育てる機会が失われつつある瀬戸際の地区が多いです。

今の自分がすべきことは、伝承文化や昔の仕事や風景、遊び
など生活の様子、交流の仕方などをさらに調べ、過去の都農町、
昔の人の知恵から学ぶことだと思います。地区の直会での振る
舞いや、ブドウ収穫お手伝いでブドウのお土産など、町の皆
さんにとっても親切にいただいています。今後も調査で伺う
際は些細な事でもよいので、ぜひ昔の話を聞かせてください。

8/26 教員初期研修会にて寄附講座を紹介

今年度初めて都農町で小中学校の教員に着任した先生方を対
象にした研修会で、寄附講座の取組の紹介をしました。全4校
の校長先生にもご参加いただき、今後の大学生と小中学生との
交流創出について、その意義やこれまでの中学校や東小での活
動事例をお話しました。学生企画などに多くの児童・生徒が関
われるよう、学校との連携を今後とも深めていきます。

夏休み学生ぶどう収穫アルバイト

昨年に引き続き、8/6-9/6に10名の宮大生（農・工・地域学
部）が都農ワインで収穫アルバイトに従事しました。赤尾社長
からは、「来年はもっと増員したい」との声も頂き、良い取組
となっています。都農町の関係人口づくりの一つとして幅広い
学生の関わりが期待されます。

9/10・11 けんこう講話巡回講座 in 山末、平山地区

コラム

つのもるケア講座 日常の一コマ by 吉村先生

【9/10山末地区】14名の地区の皆さんが集まり実習生2名も参加しました。日ごろの生活の留意点や事故防止のほか、訪問診療や自宅看取りについて吉村先生からお話がありました。



さらに、元気なうちに自分の最期をどのように過ごしたいか、家族やかかりつけ医の先生にノートに書いて共有しておくのが良い、とアドバイスがありました。エンディングノートについて、皆さんの関心が高まった様子でした。

【9/11平山地区】中村先生が「(がんの)告知について一緒に考えてみませんか」というテーマでお話ししました。自分や家族が病気になったときに告知をどう



したいか、患者さん本人の希望はどうか。告知をした場合としなかった場合の良い点・悪い点も含めてお話ししました。家族で話し合うきっかけになれば良いと思います。



8月某日、早朝から義父母の暮らす都城の自宅の草刈りを手伝いました。背負型草刈機で家と畑の周囲を刈りました。開始1時間で汗だくとなってしまいました。一回休憩をとってから、再度作業。このままでは熱中症の一步手前かなと不安になりました。実際に自分でやってみてわかる作業の大変さ。農業に限らず、現場で汗だくになって頑張っておられる皆さまには本当に頭が下がります。まだまだ暑い日があるかもしれませんので皆様、ご自愛下さい。(吉村)

☆☆今月の実習生紹介☆☆

8/26~9/19

田村 冬湖(たむらとうこ)さん

町立病院にて
地域包括ケア実習



医学部医学科6年生

北海道佐呂間町出身 部活：スノーボード、旅行

ひと言：1か月間、地域実習でお世話になりました。たくさんの都農町の方々と接することができ、とても充実した1か月になりました。短い期間ではありましたが、関わった全ての方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。

9/20 LIC実習生 活動報告発表会を開催しました

医学部医学科6年生6/3~9/20 町立病院実習
齋藤 史織 (さいとうしおり) さん

院外活動：ミヤチク、ヤマウでの講話、一歳半健診、すくすくベビークラブ、けんこう講話



役場でのLIC実習についての認知を深めようと、これまで病院内のみで行われていたLIC実習生の報告発表会を、今回初めて役場職員向けに開催しました。町長・副町長をはじめ約15名が参加し、質問も活発にされていました。

発表では「カルテだけでなく患者さんの話を良く聞いて診断に生かすことを学んだり、救急での手技の経験を通して気持ちの保ち方、退院前の患者ご家族への説明時のわかりやすい言葉での話し方などが勉強になりました。」と齋藤さん。

4年生時の共用試験に合格し、医師監督下で診療ができる資格をもつ医学生ですが、医師ゼロ年生としての現場経験は貴重な成長の機会になっています。今後ともLICの応援をお願いします。



9/18 みちくさ市のDr. YATAIに協力参加しました

都農中3年生が昨年の総合学習で考えた商店街を元気にする企画の一環で、吉村先生と医学生1名がみちくさ市「Dr. YATAI」に協力参加しました。ちょっと気になっている体調のことなどをカレーを食べながら気軽に相談できるという企画ブースを開設。町の方が禁煙や不眠などの悩みについて相談にいられました。中学生の大きな声が響く中での健康相談は、病院とは違ってリラックスした雰囲気でした。



とても暑い平日の昼間でしたが、来場者で賑わい、町のために頑張る中学生から元気をもらいました。



デジタル版

編集・作成：宮崎大学研究・産学地域連携推進機構
発行日：2024年9月25日 (原則毎月発行)
発行元：一般財団法人つのもる未来まちづくり推進機構
問い合わせ：0983-32-1270 (つのもる未来財団)